

7 否定文の作りかた①

— 「not と nicht」

例 1

[nicht は文末に置く]

ドイツ語：Ich schwimme heute **nicht**.

イッ(ヒ) (シュ)ヴァインメ ホイテ ニ(ヒト)

私は今日泳ぎません。

英 語：I *do not swim today.*

解説

ドイツ語の文を否定するには、否定の副詞「**nicht**」を使います。英語の「*not*」にあたるものですが、使いかたはだいぶ違うようです。例文で確認してみましょう。

まず英語では、**動詞の直前に「not」**が置かれています。さらに、「*do*」という助動詞も添えられていますね。図式化すると、次のようになります。

I swim today. ⇒ I [否定語] *swim today.* ⇒ *I do not swim today.*

これに対し、ドイツ語では「**nicht**」は**文末**にあります。文を言い終えてから、最後に否定語が来るわけです。これも図式化してみましょう。

Ich schwimme heute. ⇒ Ich schwimme heute [否定語]

⇒ Ich schwimme heute **nicht**.

文全体を否定するとき、「**nicht**」は**文末**に置かれます。そして、「*do*」のような助動詞の助けはいりません。これだけ考えると、ドイツ語のほうが楽ですね。

- 英語は否定語を文の初めに言うので、否定文だということがすぐにわかりますが、ドイツ語は文の最後まで聞かないと、否定文かどうか判断できません。日本語と同じですね！
- 主語以外のものが文頭にあっても、「**nicht**」の位置は変わりません。
Heute schwimme **ich nicht**. のようになります。

ここが同じ！

- ・ 否定の副詞 (**nicht** / *not*) を使う

ここが違う！

- ・ 英語では「*not*」は動詞の直前に置き、助動詞「*do*」も添える
- ・ ドイツ語では「**nicht**」は文末に置き、助動詞は不要

例 2

[ワク構造の場合]

ドイツ語：**Ich kann heute nicht schwimmen.**

イッ(ヒ)カン ホイテ ニ(ヒト) (シュ)ヴァインメン

私は今日泳げません。

英語：***I can not swim today.***

解説

次に、**ワク構造**を持った文を否定してみましょう。ワク構造というのは、文末がすでに重要な要素で埋まってしまっているため、「**nicht**」は文末に置けません。必然的に、文末にいちばん近い位置(=文末の手前)に置かれることになります。つまり、**話法の助動詞**を使った文では、文末にある**不定形の直前**、というわけですね。

英語では、**助動詞のあと**に「*not*」が置かれています。するとやはり、**原形の直前**になりますね。

覚えよう!! — 所有冠詞の格変化【基本】

1) 「-n」で終わるグループ…「mein」「dein」「sein」

	男性	女性	中性	複数
1 格	mein	meine	mein	meine
2 格	meines [- (e)s]	meiner	meines [- (e)s]	meiner
3 格	meinem	meiner	meinem	meinen [-n]
4 格	meinen	meine	mein	meine

2) 「-r」で終わるグループ…「ihr」「unser」「euer」*

	男性	女性	中性	複数
1 格	ihr	ihre	ihr	ihre
2 格	ihres [- (e)s]	ihrer	ihres [- (e)s]	ihrer
3 格	ihrem	ihrer	ihrem	ihren [-n]
4 格	ihren	ihre	ihr	ihre

*) 「euer」の場合、「eueres」「euerem」などとするとう発音がしにくいので、「eures」「eurem」などのように、「r」の前の「e」を省略します。

● すべて不定冠詞と同じ格変化をするので、この2つの表を丸暗記する必要はありません。どのように語尾をつければいいのか、ということだけ覚えておけばじゅうぶんです。

8 人称代名詞—「I, my, me」のドイツ語版

例 1

【1 人称と 2 人称】

ドイツ語： **Jeden Morgen holt sie mich ab.**

イエーデン モー(る)ゲン ホー(ルト)ズイー ミッ(ヒ) アッ(ブ)

毎朝、彼女は私を迎えにくる。

英 語： ***She picks me up every morning.***

解説

英語の人称代名詞は、「I, my, me」「you, your, you」などと唱えて覚えましょう。この3つの形は、それぞれ**主格・所有格・目的格**に対応するもので、主格は**主語**になり、所有格は名詞の前につけて**所有**を表し、目的格は文型によって**直接目的語**になったり、**間接目的語**になったりしました。

ドイツ語にも、同じような体系があります。「ich, mir, mich」「du, dir, dich」などとなるのですが、この3つの形は**1格・3格・4格**を表し、2格(=所有格)は含まないのが通例です。例文の「mich」は4格、というわけですね。

